

科目名：看護学概論	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間： 1 単位 (3 0 時間)	授業の方法：講 義	
担当者： 三原 千か代	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】</p> <p>看護学概論は、保健医療福祉の包括システムの中で看護が果たす役割を理解させるための科目である。看護は人々の生活行動を通じて支援する。対象の個別性を保証し、科学的根拠を元に、対象者とともに看護を進めていかなければならない。そのために、必要な専門的知識、技術を学習する必要がある事をこの学習を通して理解する。</p> <p>看護学概論は入学してきた学生が始めて看護に触れる最初の授業である。そのため看護を概観でき、学生一人ひとりが看護への興味関心が持て看護について卒業するまで常に看護の概念や看護職者のあり方について自ら追及し続けられるような姿勢を養うことをねらいとしたい。</p> <p>看護の概念、「人間」・「健康」・「環境」・「看護」を捉え、看護の位置付けと役割の重要性について理解する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護・健康とは、を理解する。 2. 看護の対象について理解する。 3. 総合保健医療福祉の中で看護が果たす役割を理解する。 4. 看護提供の仕組みの変遷と展望について理解する。 5. 看護職者のあり方について専門性や倫理性について模索し、専門職業人になることの意識を持つことができる。 	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門職として、人間関係を築くということ 求められる資質とは 2. 看護の基本的理解 看護の定義とその変遷から看護を考える 3. 4. " 理論を使って看護を考える 看護は何をするものかーナイチンゲールとヘンダーソンから 5. 健康の概念 (健康の持つ意味、健康に対する個人の責任・社会の責任) 健康の状態、健康の解釈の多様性 6. 7. 看護の対象 8. 9. 看護の機能と役割 10. 11. 看護提供の仕組みの変遷と展望 12. 看護提供の仕組みの変遷と展望 13. 看護の専門性と倫理 14. 看護の専門性とあり方を思考する。看護観レポート 15. " 	
成績評価の方法・基準	<p>筆記試験・課題に対する取り組みを総合して評価する。</p> <p>授業内小テスト 60 点、グループワーク 10 点、最終レポート 30 点</p>	
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 e テキスト (指定副読本)</p> <p>F ナイチンゲール：看護覚え書、現代社</p> <p>ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの、日本看護協会出版会</p> <p>【参考文献】</p> <p>国民衛生の動向</p> <p>よくわかる看護者の倫理綱領、プチナス</p> <p>看護理論集・日本看護協会編：看護白書、日本看護協会出版会</p> <p>※授業中に参考書を紹介する</p>	
履修上の注意事項		

科目名：看護倫理	配当年次 2年	開講時期 2年後期
単位・時間： 1単位（15時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 吉野 里子	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】 現代の医療・看護における倫理的問題はますますその複雑さを増し基礎教育で「看護倫理」を学習する重要性は高まっている。この科目は、生命倫理を基盤とし、倫理とは何か、看護職を目指す中でなぜ倫理を学ぶ必要があるのかを理解する。看護倫理の基本的な考え方や倫理問題の解決に取り組む方法や仕組みを理解する。また学生が「看護倫理」を自分の問題としてイメージでき、活用できるよう、事例を通して考える力を養うことをねらいとする。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の倫理原則について、定義と看護における意味を理解する。 2. 看護倫理の基本的考え方や倫理問題の解決に取り組む方法や仕組みを理解する。 3. 事例を分析し、そこでどのような問題があるのか、どうすれば倫理的看護実践ができるのかを考える。 	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理を学ぶ意義 看護実践上の倫理に関する主要概念 2. 看護実践における倫理的問題の特徴と倫理的問題へのアプローチ法 3. 事例検討： 母性看護 4. 事例検討： 小児看護 5. 事例検討： 精神看護 6. 事例検討： 成人看護 7. 事例検討： 老年看護 8. 事例検討： 在宅看護 	
成績評価の方法・基準	課題のレポート・課題に対する取り組みを総合して評価する。	
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 eテキスト 系統看護学講座 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 eテキスト</p>	
履修上の注意事項	看護学概論での「倫理について」に履修内容を見直しておくといよい。	

科目名：基礎看護学方法論Ⅰ (共通基本技術Ⅰ)	配当年次 1年	開講時期 1年前期・後期
単位・時間： 1単位 (30時間)	授業の方法：講 義	
担当者： 清水 さとみ	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】</p> <p>基礎看護学は、各看護学の基礎と位置づけられている。その中の基礎看護学方法論は、対象の状態によらない各看護学に共通する基本的な看護技術について学ぶ科目である。看護技術とは対象となる人々に対して安全・安楽に人間的で健康的な生活を送ることができるように援助することである。</p> <p>基礎看護学方法論Ⅰでは、看護技術の概念、コミュニケーションの定義・基本的要素、指導技術について学ぶ。</p> <p>看護技術は、再現性・応用性が求められ人間関係を通して提供される。看護実践には看護技術習得は必須である。看護技術教育では、感染防止の基本・コミュニケーション能力を提供される看護技術のすべてに共通する能力として教授する。学生は4月に入学したばかりである。基礎科目・専門基礎科目、基礎看護学では看護学概論、方法論Ⅲ、方法論Ⅴをも並行して学ぶ。「看護」や「看護技術」の基礎的な概念や、基礎看護技術のボディメカニクスについては履修している。身近な集団の中で専門用語を理解し語彙を増やし、人間関係形成から専門職としてのコミュニケーションを意識させる。開講時期は9月、10月とした。前後に基礎看護学実習Ⅰを設定。既習の知識を想起し、自らが自己主張と他者尊重の基本的なコミュニケーションスキルを高め、専門職としてこれから学ぶ看護技術の取り組みにつなげたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の概念について理解する 2. 感染防止の基本法について理解する。 3. 専門職として他者と関わるための効果的なコミュニケーション技術について理解する。 4. 対象に働きかけ、行動変容を促す教育・指導技術について理解する。 	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の概念 看護技術の範囲 看護における安全・安楽・自立の意義 2. コミュニケーションの意義・基礎 基本的要素 コミュニケーションの種類と概要 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本 接近的行動と非接近的行動 (実習室) 4. 専門職としてコミュニケーション能力の向上のポイント 5. 看護を行う上での効果的なコミュニケーション技法 6. 応答能力を高める プロセスレコードを用いて自分の行動の振り返り 7. 8. 応答能力を高める プロセスレコードを用いて自分の行動の振り返り (実習後) 9. 10. 看護における教育・指導技術の意義・プロセス 11. 12. 13. 14. 15. 試験・まとめ 	
成績評価の方法・基準	筆記試験 70% 演習課題 30%	
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 eテキスト</p> <p>【参考文献】</p> <p>授業中に参考書を紹介する</p>	
履修上の注意事項		

科目名：基礎看護学方法論Ⅱ（クリティカルシンキングⅠ）	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期・後期
単位・時間： 1 単位（15 時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 阿佐美 夕姫・清水 さとみ	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】</p> <p>看護過程は看護師が対象の健康上の問題を解決していくために行う思考と行動の道筋である。看護援助において有効に利用するためには看護過程の基盤となる考え方を理解しておく必要がある。その思考と行動を実践するためには、問題解決過程やクリティカルシンキングといった考え方が重要となってくる。この他にも看護過程の基盤となる考え方としてリフレクションや臨床推論と臨床判断、看護理論についても学ぶ。</p> <p>どのような看護場面でも適応できる基本的なアセスメントの枠組みとして開発され看護診断を導くうえで有効なゴードンの機能的健康パターンを用いて系統的に対象を捉え理解することで、EBM の実践に繋がるための基礎的能力を養う。それらを理解したうえで各方法論へ進み対象理解・日常生活援助との関連性を学んで欲しい。</p> <p>さらに、実施したこと、観察したことを的確に捉え、事実に基づいた内容を簡潔明瞭に記録・報告できる技術の習得を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方について理解する。 2. 記録・報告の意義、方法について理解する。 	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程、看護過程を展開する際に基盤となる考え方（問題解決過程、問題解決に必要な力） 2. 看護過程を展開する際に基盤となる考え方（クリティカルシンキング、倫理的判断と価値判断、リフレクション、臨床推論・判断） 3. 情報の収集の枠組み、ゴードンの機能的健康パターン 4. 記録・報告の意義、方法 5. 看護過程の各段階 アセスメント（情報の収集の方法、情報の収集の枠組み） 6. 看護過程の各段階 アセスメント（情報の分析、全体像の把握）、看護問題の明確化（看護診断） 7. 看護過程の各段階 看護問題の明確化（看護診断）、看護計画の立案、実施、評価 8. 試験 	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100%	
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ノーヴェルヒロカワ 系統看護学講座 基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 e テキスト</p> <p>【参考文献】</p> <p>江川隆子 かきくだけ看護診断 日総研 NANDA-I</p>	
履修上の注意事項		

科目名：基礎看護学方法論Ⅲ（基本技術Ⅰ）	配当年次 1年	開講時期 1年前期
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：講 義	
担当者：森田 真弓 井波 愛	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】</p> <p>基礎看護学方法論Ⅲでは、看護実践のあらゆる場面において基盤となる共通技術を解剖生理学など人体の構造と機能にかかわる知識を科学的根拠として活用しながら学習する。具体的な内容として、ヘルスアセスメントの概念を理解し、対象を正しく捉えるための看護における観察の意義、基本的なフィジカルアセスメントについて学ぶ。</p> <p>フィジカルアセスメントとは、対象の基本的な身体状態、生活機能を観察・評価する方法の1つである。バイタルサインの観察・測定、フィジカルイグザミネーション技術、問診の方法を習得する。看護師・患者体験を通して、まずは正常の理解と、それを判断するための観察の視点を理解し、看護過程の最初のステップである情報収集やアセスメントの実際を学習する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントについて理解する。 2. フィジカルアセスメントと観察の視点について理解する。 3. フィジカルアセスメントに必要な技術としてバイタルサイン測定ができる。 4. 観察の種類、方法を理解し一般状態の観察ができる。 	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントとは／心理・社会面のアセスメント 2. フィジカルアセスメント／セルフケア／身体計測 3. フィジカルアセスメントに必要な技術 4. 5. バイタルサインの観察とアセスメント／バイタルサイン測定における記録と報告 6. 7. 8. 系統別フィジカルアセスメント 9. 10. 11. 12. 13. バイタルサイン測定の実施／報告・記録の実施 14. +対応時間 技術試験（バイタルサイン測定） 15. 筆記試験および解説 	
成績評価の方法・基準	筆記試験 50%・技術試験 50%	
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 eテキスト 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院</p> <p>【参考文献】</p> <p>岡庭 豊 フィジカルアセスメントがみえる メディックメディア ナーシンググラフィカヘルスアセスメント メディカ出版 看護実践のための根拠が分かる基礎看護技術 メヂカルフレンド社</p>	
履修上の注意事項	自己学習時間を有効活用し、知識・技術の正確な習得ができるよう積極的に取り組んでください。	

科目名：基礎看護学方法論Ⅳ（日常生活援助技術Ⅰ）	配当年次 1 年	開講時期 1 年前期
単位・時間： 1 単位（ 30 時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 阿佐美 夕姫	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】</p> <p>食事および排泄は人間が人間らしく生きていくうえで欠かすことのできない営みであり、生理的欲求であり、日常生活そのものである。</p> <p>健康が障害されている人にとって、食事は療養生活を続けていくための源であり、治療の一部でもある。排泄は誰もが他者の世話になることなく、自分でしたいと思うことの一つである。また、人は活動・運動することによって、日常の生活行動を生み出すことができる。疾病の回復・保持・増進及びニード充足に向けた生活行動を援助し、充足感や闘病意欲を高めるために重要である。しかし、機能障害や治療上の制約、行動意欲の低下などによって、食事・排泄や活動・運動を行うことが困難となる。したがって、食・排泄、活動・運動の援助は生理的な意味のみならず、心理的・社会的な意味にまで影響を及ぼす援助であることを学ぶ。また、そのような状況にある対象への安全・安楽・自立を考慮した看護技術について習得する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間にとっての食の意義を理解する。 2. 食事に関する要因を理解し、適切な食事援助技術を学ぶ。 3. 人間にとっての排泄の意義を理解する。 4. 排泄に関する要因を理解し、適切な排泄援助技術について学ぶ。 5. 移動動作・体位変換の援助技術を学ぶ。 6. 移送方法の意義を理解し、その援助技術を学ぶ。 7. 活動と休息の必要性を理解し、適切な休息の援助技術について学ぶ。 	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 食事栄養の生理的・心理的・社会的意義、消化・吸収・代謝のメカニズム 2 栄養・水分・電解質・食欲・摂食能力・治療・特別食 3 摂食・嚥下の仕組みと、障害が起こるメカニズムや症状、義歯 4 経口・経管・中心静脈栄養、高カロリー輸液 5 排尿・排便の意義とメカニズム、排尿・排便障害 6 自然排尿・排便の介助・床上排泄・トイレ誘導・ポータブルトイレ排泄援助 7 一時的導尿と持続的導尿 8 排便障害の対症看護、オムツ交換の援助 9 浣腸、摘便、ストーマ造設患者へ援助 10 活動・運動の生理的メカニズム、姿勢・体位・動作に関する基礎知識と生理機能への影響 11. 12. 活動・運動を支援するための援助 13 睡眠・休息の意義と生理学的メカニズム・阻害する因子 14 栄養・排泄・活動・睡眠に関するゴードンの機能的看護パターン <p>対応 食事介助、口腔ケア、経鼻経管栄養（胃管挿入と栄養注入）、義歯の着脱、オムツ交換時に陰部洗浄を行う援助の実際</p> <ol style="list-style-type: none"> 15 筆記試験、まとめ 	
成績評価の方法・基準	筆記試験 90% 演習課題 10%	
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学 [2] [3] 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 e テキスト 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ニューヴェルヒロカワ</p> <p>【参考文献】</p> <p>授業中に紹介する</p>	
履修上の注意事項		

科目名：基礎看護学方法論Ⅴ（日常生活 援助技術Ⅱ）	配当年次 1 年	開講時期 1 年前後期・後期
単位・時間： 1 単位（ 30 時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 三原 千か代 中條 佳代	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】 人は環境から精神底・身体的・社会的な影響を受ける一方で、環境に適応しながら健康的な生活を営んでいる。入院による生活の変化を理解し、快適に過ごすことができるような病床の環境について理解し、病床環境を適切に整えるための援助技術、また、そのような状況にある対象への安全・安楽・自立を考慮した看護技術について学ぶ。</p> <p>清潔・衣生活援助の基礎知識として、身体を清潔に保つことの意義、皮膚の生理機能が最大限に発揮できるようにするために皮膚の構造と機能を学ぶ。皮膚、また衣服は外界からの刺激から身を守る役割がある。皮膚や衣服の清潔が保たれないと、外界に対する防衛機能が果たせない状態になる。さらに着衣は人間としての社会生活の秩序を維持する基本であり、自分らしさを表現する自己表現の手段でもある。</p> <p>患者体験を通し感じたことを学んだ知識につなげ、対象の状態や生活習慣を考慮して適切な清潔援助技術を選択し実施できる能力を身につける。他方法論など既習知識と関連づけて、活用、応用できる力も養う。</p>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術の概念、ボディメカニクスとは、人にとっての環境の意義 ボディメカニクス体験（対応時間にて） 2. 病床環境とは、シーツ交換、シーツの畳み方 3. 臥床患者のリネン交換、デモンストレーション 4. 5. ベットメイキング演習 <p>対応：ベットメイキング技術チェック・筆記試験</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 自己の生活から「日々の清潔を整えるADL」を想起し、動作面から今の一般通例や個別性を知る。 7. 専門職者が対象の「清潔」を整えるために必要な知識と態度 (清潔の意義・皮膚の構造と生理・衣の役割・清潔のニーズのアセスメント・倫理姿勢) 8. 健康状態に応じた清潔援助の方法選択の数々 死後の処置の意義 9. 10. 清潔援助の実際（洗髪、足浴） 健康状態に応じた病衣の着脱の援助技術の方法 11. 12. 13. 14. 臥床患者の寝衣交換の方法と実際 全身清拭の方法と実際 15. 対応： 筆記試験・技術チェック 	
成績評価の方法・基準	環境：技術 50%・筆記試験 50% 清潔衣生活：技術 50%・筆記試験 50%	
テキスト	<p>【教科書】 系統看護学講座 基礎看護学 [2] [3] 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 e テキスト 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院</p> <p>【参考文献】 山口瑞穂子 看護技術講義・演習ノート サイオ出版 岡庭 豊 看護技術がみえる メディックメディア</p>	
履修上の注意事	自己学習時間を有効活用し、知識・技術の正確な習得ができるよう積極的に取り組んでください。	

科目名：基礎看護学方法論Ⅵ（日常生活技術演習）	配当年次 1年	開講時期 1年後期
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：演習	
担当者：森田 真弓 実務経験のある教員による授業 □		
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】</p> <p>人が生命を維持し、疾病の回復、健康維持のためには生活を整える必要がある。入院による生活の変化し、機能障害や治療上の制約、行動意欲の低下などによって、自ら環境の調整や活動・運動を行うことが困難となる。</p> <p>基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅴは看護実践に共通する基本技術や生活援助技術を学習した。健康障害に応じた看護を実践するためには、原理原則に基づいた看護技術を習得することが求められる。この科目は、学んだ日常生活援助技術の方法を想起し、繰り返し練習し振り返ることにより、行動の根拠や留意点が理解できる。既習の知識を活用し対象のニーズが充足されているか、さらに安全、安楽、正確に基づいた基本的看護技術の習得を目指す。</p> <p>【目標】</p> <p>健康障害をもつ対象の状況に応じた看護技術の提供ができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 健康状態を評価するために基礎知識を活用し、計画する根拠や必要な観察項目が抽出できる。 対象の健康状態に応じた方法、留意事項（その人にとっての看護の視点）を見出すための実施前評価ができる。 指定した援助技術について安全・安楽・自立を確保して実施できる。 メタ認知を活かし、目標達成のための計画的な学習行動がとれる。 この学習過程を通して、コミュニケーション能力を養う。 	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 学習内容の理解、方法論Ⅵ・Ⅸの関連と展開方法の理解 看護過程の構成要素の想起、情報収集の方法とゴードンの機能的健康パターンの理解が提供する 3 IXの事例1の援助に対して行動計画を作成する。 4・5 実施前評価の理解 6・7 IXの事例2の必要な援助に対し、グループで作成した援助計画に基づいて実践・適切な技術を習得する。対象のニーズを満たすため手順書の記入について 8～10 繰り返し援助を実践し、援助計画をより良いものにする。 11～14 技術試験 15 筆記試験 	
成績評価の方法・基準	筆記試験 50%・技術試験 50%	
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学 [2] [3] 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 eテキスト 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院</p> <p>【参考文献】</p> <p>基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド 看護技術が見える①② メディックメディア 看護学大辞典 メヂカルフレンド社 山口瑞穂子 看護技術 講義・演習ノート サイオ出版 深井喜代子 Q&Aでよくわかる！看護技術の根拠本 メヂカルフレンド社 川島みどり ビジュアル基礎看護技術ガイド 照林社 渡邊トシ子 ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメントガイド ヌーヴェルヒロカワ</p>	
履修上の注意事項	実習室での講義では、指定された身支度が整わないと出席できない。	

科目名：基礎看護学方法論Ⅶ（クリティカルシンキングⅡ）	配当年次 1年	開講時期 1年後期
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 清水 さとみ	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】</p> <p>基礎看護学方法論Ⅶは看護を導き出す思考過程を学ぶ。看護過程とは看護を実践するものが独自の知識体系に基づき対象者の必要に的確に答えるために、看護により解決できる問題を効果的に取り上げ解決していくために系統的、組織的に行う活動である。科学的思考とは、誰が見ても共通の看護問題が判断でき、その方法は複雑でないことである。基礎看護学実習Ⅰを終了直後でありその思考を混乱なく身につけることで、全ての看護実践の場で一貫して活用でき、看護の専門性を高めることにつながることを理解してほしい。</p> <p>看護過程の思考に看護診断の考え方を取り入れている。看護の視点はゴードンの機能的健康パターンを使用する。基礎看護学方法論Ⅱで看護過程を展開する際に基盤となる考え方について学び、看護の視点でどのように人を見ていくのか理解してきた。それを理解したうえで基礎実習と進む。方法論Ⅶは看護過程の進め方を中心として学ぶことをねらいとする。又看護診断は多くの理論を背景に成り立っている。その事理解と看護に活かせるよう主な理論を学ぶことをねらいとする。</p>	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 看護過程の概要 問題解決型アプローチ看護過程の構成 看護過程と看護診断看護過程を学ぶ意義 当校の看護過程の展開方法 3. 4. 紙上患者の展開モデルを提示 5. 6. 紙上患者の展開演習（観察 看護診断過程） 7. 8. 9. 紙上患者の展開演習（計画立案 実施 評価） 10. 看護実践に必要な理論の概要と看護のポイントがわかる 看護と看護理論 （セルフケア、ニード、ストレスコーピング、ボディイメージ、自己概念） 11. 12. 13. 14. 紙上患者の展開演習（観察～計画立案） 15. 筆記試験・まとめ 	
成績評価の方法・基準	筆記試験 50%・事例展開 50%	
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 ノーヴェルヒロカワ 系統看護学講座 基礎看護学 [2] [3] 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 eテキスト</p> <p>【参考文献】</p> <p>江川隆子 かきくだき看護診断 日総研 NANDA-I NANDA International NANDA-I 看護診断 定義と分類 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院</p>	
履修上の注意事項		

科目名：基礎看護学方法論Ⅷ（診療の補助技術）	配当年次 3年	開講時期 3年前期・後期
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 大石 仁美・吉野 里子	実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/>	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】</p> <p>感染防止の基本は、標準予防策（スタンダード-プリコーション）であり、その基本方針と具体策を学ぶ重要性を理解し、感染の成立条件や施設内で発生する院内感染を防止するための技術を学ぶ。</p> <p>検査・治療・処置に関する技術は、看護の対象に対して健康回復に欠かせない技術であり、検査・治療・処置はそれ自体が心身に苦痛を与える場合も少なくないため、安全・安楽・正確性を考慮した技術の提供が求められている。それぞれの基礎知識を学び、根拠を考えて実践する技術として習得することをねらう。</p> <p>与薬に関して重要なことは、医師の指示のもと、薬物療法を受ける対象にとって、より安全で適切かつ効果的に実施されることである。間違いがあると生命を脅かすことにつながることを認識し、与薬の技術に関する基礎的知識を学び、それぞれの基本的技術を習得する。</p> <p>苦痛の緩和・安楽確保の技術は、局所病変の治癒過程を促進したり、疼痛の緩和をはかる治療の側面と身体の安楽、精神的安定をはかる看護技術の側面を持っている。安楽促進に必要な基礎知識を理解し、それらの技術を学ぶ。</p> <p>上記の技術について、安全・安楽かつ正確な知識・技術の習得を目指す。</p>	
授業の計画	<p>【授業計画】</p> <p>1. 2. 感染とその予防の基礎知識 苦痛の緩和、安楽確保の技術</p> <p>3. 4. 与薬の技術</p> <p>5. 筆記試験</p> <p>6. 7. 実技演習</p> <p>8. 9. 与薬の技術 輸血管理 創傷管理技術 創傷管理の基礎知識・包帯法</p> <p>10. 11. 与薬の技術 注射（皮下・皮内・筋肉内） 症状・生体機能管理技術の基礎知識、検体検査、生体情報モニタリング 診察・検査・処置における技術</p> <p>12. 感染防止・安全確保の技術 針刺し事故防止、誤薬防止の基礎知識 統合実習から得た学び グループワーク</p> <p>13. 14. 実技演習</p> <p>15. 筆記試験</p>	
成績評価の方法・基準	筆記試験 40%+30%・手順書 30%	
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学 [2] [3] 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 eテキスト 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院</p> <p>【参考文献】</p> <p>岡庭 豊：看護技術がみえる① メディックメディア 岡庭 豊：看護技術がみえる② メディックメディア</p>	
履修上の注意事項	<p>レポート課題は、提出時間を守ること。遅れた場合は、評価の対象にならない。</p> <p>実習室を使用しての授業では、指定された身支度が整っていないと授業に出席できない。</p> <p>身だしなみ（髪型、化粧、白衣）の自己チェックを強化する。</p>	

科目名：基礎看護学方法論Ⅸ（臨床看護総論）	配当年次 1年	開講時期 1年後期
単位・時間： 1単位（ 30時間）	授業の方法：講 義	
担当者： 森田 真弓	実務経験のある教員による授業 □	
授業概要 目的・到達目標	<p>【講義内容】</p> <p>「臨床看護総論」は看護が提供される場で看護の対象となる人々と実際に関わりながら看護実践を行う（臨床看護）のための科目である。既習科目の基礎的な知識や技術をどのように統合しながら自分の看護実践として具現化していくのかその学習の手掛かりとなる。基礎看護学や各看護学の概論を終了し、看護の対象や、看護実践に共通する基本技術や生活援助技術を学習してきた。健康状態の経過や症状、治療・処置に応じた看護を理解するためには、日々の状態を正しく捉え、必要な看護を導き出すことが必要となる。この科目は、臨床看護において看護の対象を理解するための基盤を学び、対象者の症状や治療・検査の知識とともに「アセスメント・判断・援助」という基本的な思考過程に沿って必要な判断ができる能力を養う。事例を活用し、状態を判断することを繰り返し、その時その場面の判断力の強化や対象にあった援助を見出す重要性を学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <p>看護過程のプロセスとして「観察」の段階を展開する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の看護を見出すうえで必要な知識を学習し理解できる。（発達段階の特徴、疾患、症状、治療処置を関連づけて概略を把握） 2. 「観察とは」が理解できる。 3. ゴードンの機能的パターンのカラスタ「2」「3」「4」について理解し、アセスメントに活用できる。 4. メタ認知を活かし、目標達成のための計画的な学習行動がとれる。 5. この学習を通して、コミュニケーション能力を養う。 	
授業の計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習内容の理解、方法論Ⅵ・Ⅸの関連科目と展開方法の理解 2. } 3. } 事例展開 ①症状のある患者の看護がわかる。 4. } 5. 6 } 7. 8 } 事例展開 ② 「栄養/代謝」「排泄」「活動/運動」 9. 10 } 11. 12 } 13. 14 必要な援助を導き出す。 グループで援助計画を立案する。 15. 試験および解説 	
成績評価の方法・基準	筆記試験 30% 課題評価 70%	
テキスト	<p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 基礎看護学 [4] 臨床看護総論 [3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 eテキスト 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術 医学書院</p> <p>【参考文献】</p>	
履修上の注意事項		